

**私立大学情報教育協会
平成27年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告**

D-I班 team MIE

1



**地域との連携を
よりよくするための方策**

3

大学の役割

求められる内容は様々だが、以下の3つはとくに重要だと考える

社会が求める
人材の輩出

地域の活性化

知の拠点



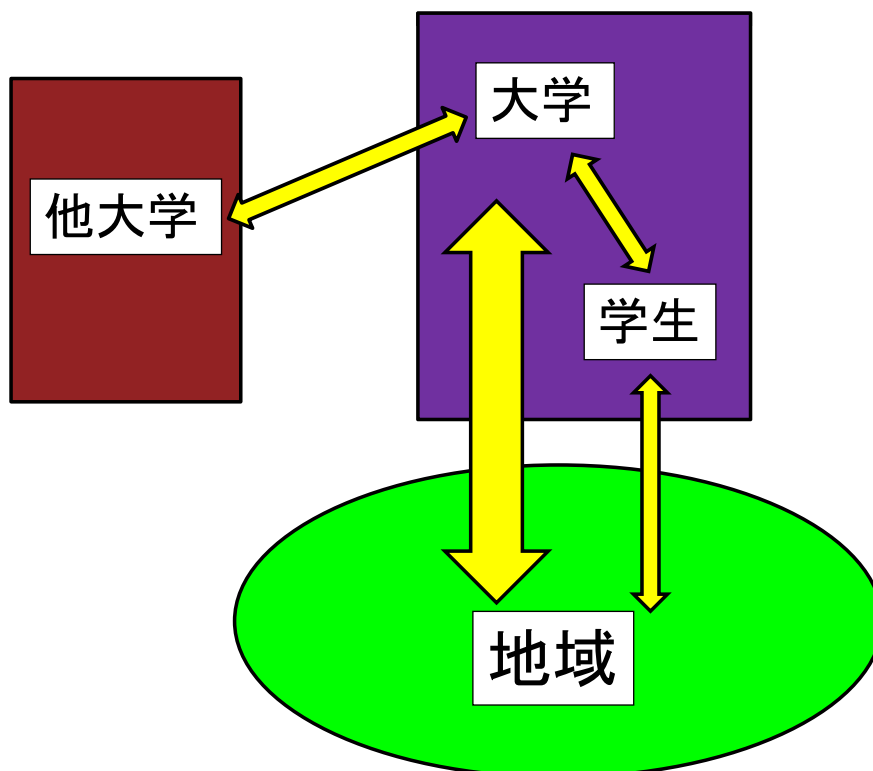
これらの役割を
果たすためには...

- ・情報発信
- ・多様化する社会に対応(教育・研究)
- ・地域との連携
- ・他大学との連携
- ・地域や社会のニーズを知る(拾い上げる)

上記のような取り組みが必要

4

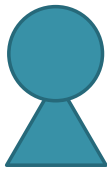
連携イメージ図



5

大学の現状

- ・特にやりたいことなんてない...どこで探すんだ...(学生)
- ・知ってる先生が一人もないから頼めない...
- ・地域で困ってるけど大学に聞いていいのかな...
- ・どこに問い合わせるの？
- ・ホームページのどこに情報があるの？
- ・他大学となんて連携取れるの？



このような様々な不満が...

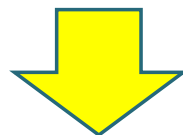
大学としての役割を果たせていない！！

6

地域連携をテーマに選んだ理由

- ・社会が求める人材を育成するためには
社会に出る前に、人生のベテランとの関わり合いを持つことが重要。
- ・若者が入ることにより、地域が活性化する。

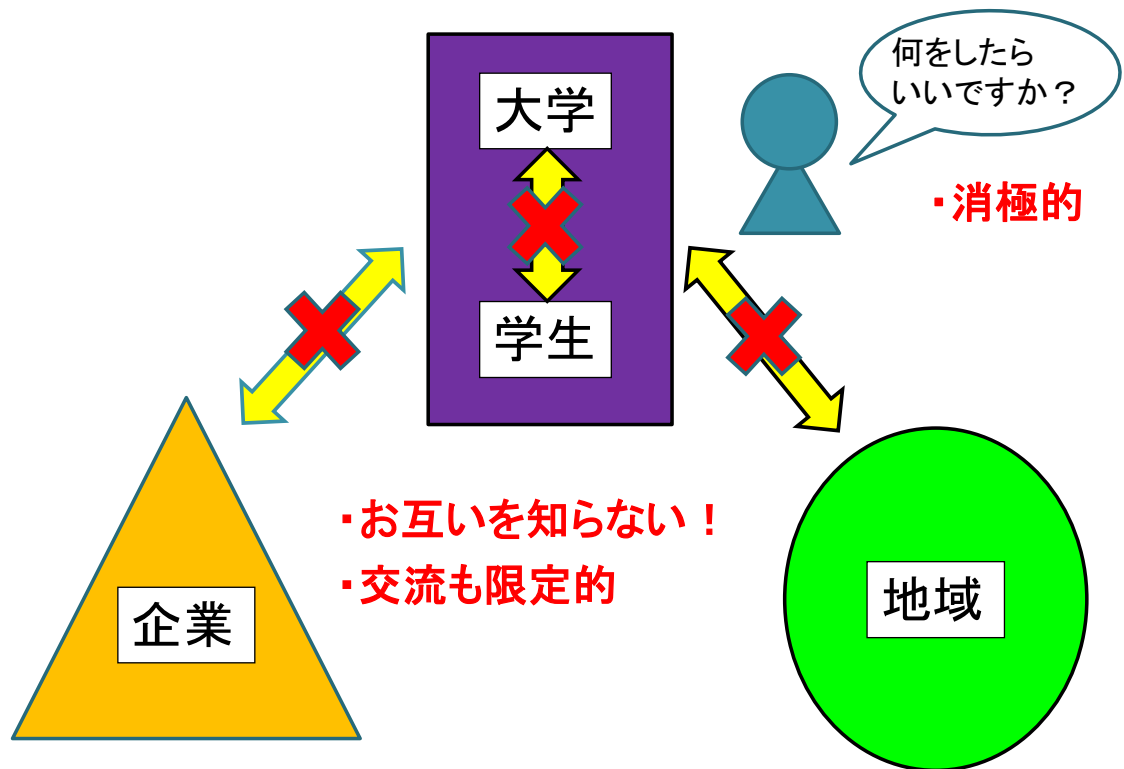
地域との連携を強化したい！



テーマ
「地域との連携をよりよくするための方策」

7

問題点



8

なぜこのような問題が起こるのか?

- ・学生・地域・企業が情報を知る機会がない。
- ・学生が受け身。
- ・学生参加型の仕組みがまだ構築できていない。
- ・大学が地域へ情報を発信できていない。

Etc...

9

解決策の検討

- ・大学としての取り組み
 - 授業のカリキュラムとして取り組む
 - 興味を持ってもらうきっかけづくり
 - 体験をデータベース化
 - 学生に映像・レポートを作ってもらい、次年度履修時活用
- ・教員からの働きかけ
 - 地域の情報を学生へ発信する。(授業・ゼミ・個別等)
- ・職員の役割
 - 学生へのタイムリーな情報提供。(ポータル・メール・電話等)
 - face to faceでの学生対応。
 - 職員間の連携。
 - 教員を通じたアプローチ。
 - 地域との協定を結ぶ、文書作成のノウハウ。

10

解決策の検討

- ・解決策実現のためのハードルと、その打開策
 - 教員と地域間でwin-winな関係を築く必要がある。
適性にばらつきがあり、カリキュラムに組み込むことが難しい。
 - 授業のタイプ・内容・担当教員を選定し、依頼をかける。
 - 情報提供、情報共有
 - システムを活用することで、タイムリーな情報を提供する。
 - 地域との協力体制を確立する。
 - 現在保有している人脈を活用する。
システムを使用して大学の取組を見える化し、
わかりやすく伝える。

11

大学のイノベーションを行うには

問題

地域の人を含めた関係者からの
フィードバックが共有できない。

→ PDCAサイクルを回し、次年度に
つなげていくことが難しい

提案

学生・教職員・地域・ステークホルダーが
参加できる情報共有システム

求められる機能

- ・学生が作成した動画・報告書 閲覧・蓄積可能
- ・関係者がコメントできる機能
- ・離れた状況下でも対話できる機能(会話型)
ゆくゆくは、ボランティア募集機能・イベントの掲載etc...

12

その結果…！

学生

様々な経験を経て、主体性・社会性がはぐくまれる。人と密接につながる。

→自ら学び、自己実現をしていく人材に！

地域

若い力や考え方を取り入れることで、新しいことができる
伝統や歴史を守る次期後継者が現れるかもしれない！

→協力的に！

大学

特色が出る。認知度が上がる。口コミもよくなる。

→受験生が増加！学ぶ意識の高い学生が集まる！

**地域・大学・学生の距離が縮まり
Win-winの関係が！**



13